

研究基盤 EXPO 2021「若手技術職員×1年生ゼロ局員での政策対話」

植原 邦佳

技術部 技術職員

令和3年1月22日（金）～29日（金）に開催された研究基盤イノベーション分科会・文部科学省 連携企画 研究基盤 EXPO 2021において、研究基盤協議会プレイベント内の「若手技術職員×1年生ゼロ局員での政策対話」セッションに植原 技術職員が参加しました。

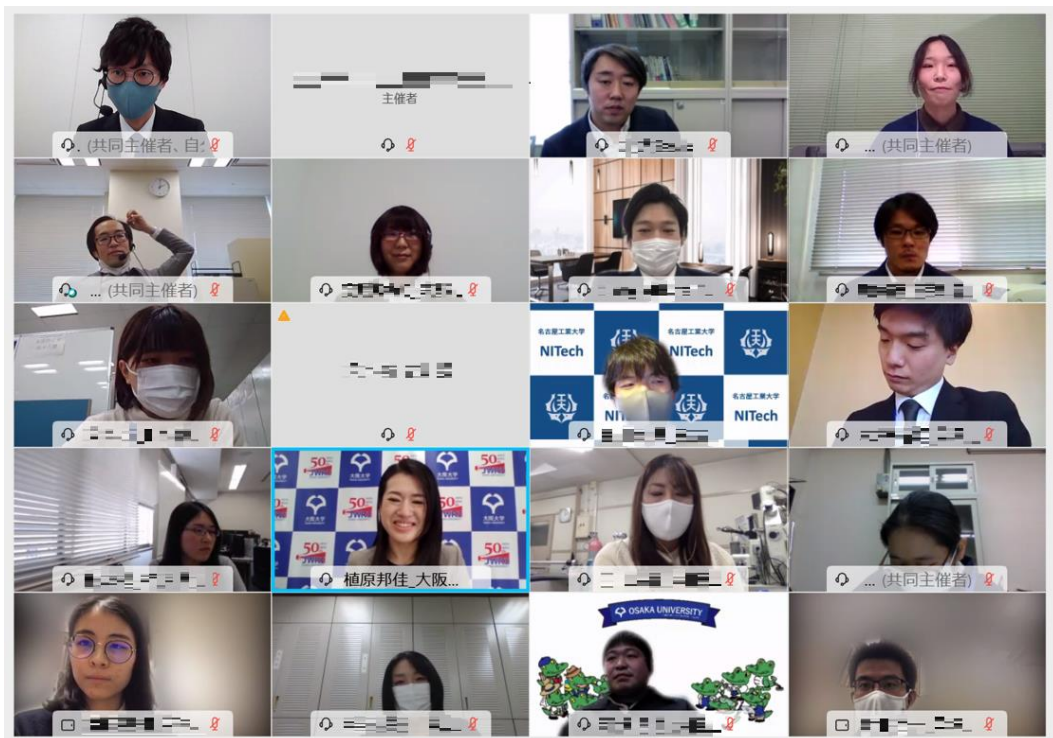
今までに例のない新しい試みである「若手技術職員×1年生ゼロ局員での政策対話」は、文部科学省局横断・萌芽的政策検討チーム（ゼロ局）、大学技術職員組織研究会、近畿地区女性技術職員ネットワークに所属する若手職員が「これからの研究現場を支えていくための人脈構築の場」とともに、基盤研究協議会への若手参画の契機とすることを目的に開催され、YouTube 配信にて100名をこえる多くの方にご覧頂きました。

本セッションは、文科省ゼロ局員6名、技術職員10名と3名のファシリテータで実施されました。まず、初めに簡単に自己紹介を行った後、3グループに分かれてグループワークを行いました。グループワークは、「お互いの立場、仕事内容を知る」というテーマで行われました。植原 技術職員

が参加したBチームでは、仕事内容だけでなくお互いのキャリアパスについての考えや今後必要だと感じるスキルについてなどを共有しました。また、文科省ゼロ局員の方からは、技術職員を「エンジニア」と表現することについてどう感じるか、といった質問などもありました。グループワークの終盤では、もっと話をしたい、お互いを知りたい、時間が足りなかったという声が挙がり、第1回に相応しい良い交流の機会になりました。

セッションの最後に行われた報告会では、他の2チームの活発な意見交換の様子を知ることができました。今回議論された内容は、同メンバーで構成する研究基盤協議会若手ネットワークで取り組むべき今後の課題として引き続き議論していくことになっています。

今回の「若手技術職員×1年生ゼロ局員での政策対話」セッションを通じて、文科省職員や他大学の技術職員とお話しし、私自身が「研究基盤」「技術職員」の未来についてを深く考えるきっかけとなりました。このような貴重な機会を頂き、どうもありがとうございました。



YouTube 配信の様子